

事業者排出量削減報告書

(あて先) 京都府知事	
住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地) 城陽市上津屋境端32番地	氏名(法人にあっては、名称及び代表者の氏名。記名押印又は署名) 株式会社 イーグルデリカ 代表取締役 井 上 電話 0

京都府地球温暖化対策条例第19条の規定により提出します。

特定事業者の主たる業種	食品製造業
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））
計画期間	平成 18 年 4 月 ~ 平成 20 年 3 月
基本方針	空調設備の効率改善及び断熱構造の見直しでエネルギー消費効率を改善、廃棄物排出量の削減と節水対策の推進で、5%の温室効果ガス排出量の削減を目指す。
推進体制	生産技術部長を中心に地球温暖化対策の実施計画策定と、進捗状況の管理システムを構築する。

年度ごとの具体的な取組及び措置	年度	設備、対象、工程等	措置内容
	18年度	全部門	
18年度	工場全部門		空調機のクーリングタワーと室内外機の洗浄と整備の強化で、圧力を抑制し電気の消費量削減を実践した。
18年度	工場全部門		空冷式空調機の室外機に省エネタイプの水噴霧装置を計画的に導入開始。
18年度	工場全部門		冷凍食品の流水解凍用蛇口を中心に節水コマを取り付けた。
17~18	工場設備部門		排水処理設備の高濃度処理改修で産業廃棄物排出量を50%削減した。

温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度(実績) (17)年度 (二酸化炭素換算(t))		目標年度(計画) (19)年度 (二酸化炭素換算(t))		削減率 (計画) (%)	報告年度(実績) (19)年度 (二酸化炭素換算(t))		削減率 (実績) (%)
	A 事業所等排出区分		3,579 t		3,394 t	-5.2%		3,309 t	-7.5%
	B 輸送車両排出区分		t		t	%		t	%
	C その他排出区分		t		t	%		5 t	0.1%
	排出合計	*1	3,579 t	*2	3,394 t	-5.2%	*4	3,314 t	-7.4%

その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度(計画)				報告年度(実績)			
		取組量等		二酸化炭素換算(t)		取組量等		二酸化炭素換算(t)	
	森林の保全及び整備	(整備面積)	ha	(吸収量)	t	(整備面積)	ha	(吸収量)	t
	府内産の木材の利用	(利用量)	m³	(削減量)	t	(利用量)	m³	(削減量)	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(発電量)	kwh	(削減量)	t	(発電量)	kwh	(削減量)	t
	グリーン電力の購入	(購入量)	kwh	(削減量)	t	(購入量)	kwh	(削減量)	t
	削減量等合計			*3	t	*5			t

差引排出量 (排出合計-削減等合計)	基準年度(実績)		目標年度(計画)		削減率(計画)	報告年度(実績)		削減率(実績)
	*1	(*)	(*)	(*)		(*)	(*)	
	*1	3,579 t	(*)	3,394 t	-5.2%	(*)	3,314 t	-7.4%

特記事項  
 1. 当社の弁当盛り付け室や調理バンディング室等は、品質上の問題から室温は20℃に設定されており、当然作業者の服装もその温度に見合ったものであり、他の資材倉庫等は設定温度を20℃に合わせる傾向にあったものを、25℃に設定し各人で調整できないようにコントロール部分に特殊なカバーを設けた。(約40箇所)  
 2. 当社では空調機の大部分を空冷式を採用しており、圧力を抑制することが省エネの取り組み課題であり、熱交換器の洗浄と整備の強化に併せて圧力抑制を目的とした水噴霧装置の採用を計画的に進めてまいります。  
 3. 節水対策として水道蛇口に節水コマの取り付けや水道ホースの先端に先止めガンの取り付けにより、前年比30%の節水効果を挙げる事が出来た。  
 4. 排水処理設備の改修工事を高い高濃度処理の採用により余剰汚泥の発生量を50%削減可能となりました。

連絡先	担当部署	
	担当者氏名	
	住所	
	電話番号	
	ファクシミリ番号	

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。  
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。  
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。  
 4 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」の実績については、計画期間中の実績の累計を記入してください。  
 (例) グリーン電力の購入による温室効果ガスの削減実績が18年度5トンで19年度10トンの場合、19年度の報告書の実績については18年度と19年度の実績を累計し15トンと記入  
 5 「特記事項」には、平成2年度(1990年度)を基準とした排出量の対比やエネルギー原単位CO2排出量、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の実績、特定フロンなどの条指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。